

生活体験

第10回

10日間

明るく力強く生きる人々との交流

# カンボジア平和学習 & 高床式ホームステイ アンコールワット遺跡群



プログラム参加費

218,000円

旅行代金

167,000円

期間

2019年12月24日(火)～  
2020年1月2日(木)

\* 出発前日が事前研修会です。

小学校5年生～高校3年生  
15名(最少催行5名)

対象・定員

研修地

プノンペン・シムリアップ  
プ・コンポンチャム

協力

トロピアンコ村

利用航空会社

ベトナム航空

\*プログラム参加費・旅行代金の詳細は『事業概要』をご参照下さい。

## 現地情報

- ◆気候 乾期で過ごしやすい季節です
- ◆気温 最高気温32℃ 最低気温23℃(12月)
- ◆時差 日本より2時間遅れています
- ◆通貨 カンボジアリエル
- ◆概要 様々な歴史を乗り越え力強く生きる村人や子供たちとの交流、平和学習を通して、カンボジアの過去と未来を学びます
- ◆食事 1日3食
- ◆移動 貸切バス

## 特色

- ◆農村でのホームステイは、原則1家庭2名  
(全体人数が奇数のグループは1家庭3名の家庭もあります)
- ◆世界遺産アンコールワット遺跡群を見学
- ◆ポルポト政権の負の遺産『キリングフィールド』や『ツールスレン』で平和学習
- ◆CMAC(地雷不発弾処理政府機関)訪問と平和学習
- ◆通年を通じた交流開始から19年目になります

## プログラム

12/23(月)	夕方	事前研修会
12/24(火)	午前	成田空港発(ホーチミン経由)
	夕方	プノンペン空港着(ホテル泊)
12/25(水)	終日	プノンペン市内見学(ホテル泊) キリングフィールド見学 ツールスレン見学、王宮見学
12/26(木)	午前	小学校訪問
	午後	孤児院訪問
	夕方	日本語学校訪問(ホテル泊)
12/27(金)	午前	CMAC地雷不発弾処理博物館訪問
	午後	トロピアンコ村着(ホームステイ)
12/28(土)	終日	ホストファミリーと過ごす (ホームステイ)
12/29(日)	終日	小学校訪問(ホームステイ)
12/30(月)	午前	日本式カレーパーティー
	午後	バスでシムリアップへ(ホテル泊)
12/31(火)	終日	アンコールワット遺跡群見学 (ホテル泊)
1/1(水)	日中	トンレサップ湖水上生活者視察
	夜	シムリアップ空港発 (ホーチミン経由)
1/2(木)	朝	成田空港着、通関後解散

\*天候によりスケジュールが変更になる可能性もあります。



## 体験談

### 高1 女子

日本にいと分らない。ついつい、平和だと勘違いしてしまう。本当の貧困、本当の問題。私はなんて無知なのだろうと思い知らされた。カンボジアに行って一番衝撃的だった、あのポルポトの歴史。とても簡単に受け止められるものでも、信じられるものでもなかった。私たちは学校で世界の歴史の何を学んでいるのだろうか。ただ、年号を覚えて、賞賛されるべき素晴らしい人間の進化を知り、時に悲しい歴史の名前だけをしり、テストでいい点数をとっては世界史が得意なのだとおっしゃっていた。でも、そのどこが得意で、物知りなのか。ただ、記憶しているだけ。得意なのは、知っているのは年号や、進化の後の人間が見つけたとてもアバウトで、容易で、なんのメッセージ性もない、出来事の名前だけ。実際にその時代の人間がどれだけの苦勞をしたのか、どんな犠牲を出したのかなんて、知らずともしなかった。だからこそ、現地ガイドの話をもめて、真剣にきいて、実物に触れたこの経験は相当衝撃的で、だけど、とても大事な経験となった。ツールスレン、キリングフィールドに行ったその日は色々考えることがあって、なかなか寝付けなかった。もし、私がカンボジアに来てなかったらきっと、一生知ることのない真実だったろう。10日間の中で習ったことはまだまだたくさん数え切れないほどある。高床式での暮らしでは、日本の生活基準の高さと、独特の綺麗へと意識。汚いとは、不潔とはなんだろう。日本の生活が豊かだなんて、何を見て私は思っていたのだろうか。本当の暮らしの豊かさ、満ち足りた気持ちが味わえた。そしてカンボジア、いや、東南アジアの眠れる力。発展途上国だからこそその不安定な政治やルールがあり、怖い思いをすることもあるが、ひとりひとりが生活の中で、自分の身は自分で守る、自然と共存する、立ち向かう勇気があり、自立していた。私たち日本人は整った環境の中で籠の中の鳥のように縛られ、守られた中で甘えていたかもしれない。不安定な世界で一生懸命生きる国民の力と、成長し続ける国の力、吸収力、学ぶ力に圧倒された。発展途上国と人々は呼ぶが、むしろ人間の自立力、学習能力では私たちの方が発展途上なのかもしれない。私も、東南アジアもまだまだ成長し続ける。南国の暑さと、力に背中を押された10日間だった。